

4 情報サービス

4.1 電子メールシステム

押久保 智子、飯田 好美(KEKmail)、
佐々木 節(KEKmail)、真鍋 篤(PostJ-PARC)

4.1.1 概要

KEK 電子メールシステム (KEKmail と称す) は、共通情報システムの一部として導入され、研究系用電子メールシステム (PostKEK と称す) と管理局系電子メールシステム (MailKEK と称す) から成り、冗長化構成による 24 時間 365 日無停止運用を目標とする機構電子メール環境の中核をなすシステムである。現システムは、2008 年度の共通情報システムリプレースに伴い、2008 年 12 月より運用を行っている。2010 年度の主な活動は、次期メールシステムの仕様策定であった。

KEKmail とは別に、J-PARC 電子メールシステム (PostJ-PARC と称す) を買取り機器で運用している。PostJ-PARC の主な作業としては、申請ワークフローの見直しと、consult 受付業務の JLAN 運用室への移行を行なった。

東日本大震災による停電のため、数日間の運用停止も余儀なくされた。

4.1.2 活動報告

4.1.2.1 次期 KEKmail 仕様策定

2012年度末にレンタル更新となる共通情報計算機システムとB計算機システムを統合し、KEK 中央計算機システムとして更新を行うことが決まり、KEKmail も更新することになった。2010 年 8 月から次期 KEKmail の仕様策定を開始し、2010 年度は、9 回の仕様策定委員会が開催され、KEKmail の資料招請、仕様書原案の作成を行った。

更新するにあたり、KEKmail の形態として従来通り KEK にサーバを設置して利用するか、クラウドサービスを利用するかを検討した。クラウドサービスとして、Google apps、feedpathMail (Zimbra 日本語対応) を検討したが、利用形態が大きく変化すること、メールを機構外のサーバに保存する点などから利用者等とのコンセンサスが必要と判断したが、今回は時間的余裕がないため、次期 KEKmail は従来通りの形態とした。

新たな機能として、ウイルスの侵入防止強化のため、Cisco Virus Outbreak Filter の導入を決めた。一方、サーバスプールのウイルススキャン検討のためメーカーにスキャン方法等の提案を招請したが、どのメーカーからも正式な回答が無く、導入を断念した。

4.1.2.2 KEKmail の主な業務と運用

5 月中旬から 8 月下旬に、継続利用手続き作業を実施した。2009 年度に定めた方法に則

り、CCDB と管理局から入手した職員情報をもとに部局毎のチェックシートを作成し、利用者による継続利用手続きの前に、部局の長にデータのチェック(更新、削除、自己更新)を依頼した。その結果に基づき、7月いっぱい利用者による更新手続きを実施している。

3月11日(金)14:46に発生した東日本大震災時の KEKmail の状況と運用について記す。震災により機構内は停電となった。KEKmail はUPS 接続されており、停止操作に要する時間の電力は充分にあるが、揺れが大きかったことから避難を優先し、通常停止ではなく分電盤のブレーカーを切ることで電源を断った。システム搭載ラックが移動し一部フがリーアクセスの穴に足が落ちる状態となったが、転倒防止金具が設置されていたため転倒は免れた。機構地震対策本部の指示で、変電所復旧後直ちにメールシステムの運用を再開させるとのことで、震災当日夕方から移動したラックの整列作業を行う。3月13日(日)夕から計算機棟の一部へ送電が再開され、14日(月)朝から復旧作業に着手した。機器の動作確認の結果、幸いにもシステム上の障害も無く、ネットワーク機器の運用再開後の17時過ぎに運用を再開した。電源喪失により、3日強の運用停止を余儀なくされた。新規登録申請等の一部機能については、メールシステム以外の関連サーバが稼動を再開した3月29日からの運用となった。

また、今年度は、4月にメール受信サーバ冗長構成ソフトウェアの異常状態回復のため、2月と3月にはメール受信サーバ NFS 障害のため、計3回の10数分間の運用停止をした。

9月には、セキュリティ機器 IronPort に導入しているウイルスソフト Sophos のパターンファイルの一部にチェック漏れ障害があり、ウイルスが通過したことが判明した。この機器の関係会社である Soliton、Cisco、Sophos に対して、今後のパターンファイル提供に対するチェック体制について要望し、対策についての回答を得た。

4.1.2.3 PostJ-PARC の主な業務と運用

consult 受付業務を KEK 運用管理室から JLAN 運用管理室へ移行するため、受付回答手順の見直しと PostJ-PARC 関連 Web ページの見直しを行った。また、KEK 運用管理室(CCDB 関連)、JLAN 運用管理室、メール管理者にて、PostJ-PARC 申請業務全般の見直しを実施した。その結果、ユーザ名の確定とパスワード発行書類の返却業務のみを KEK 運用管理室が行い、その他の通知は、管理者から申請者に直接メールにて返却する事とした。

東日本大震災に際し、PostJ-PARC はラックの移動もなく、計算科学センターへの通電後の3月14日に機器の動作確認を実施した。しかし、東海キャンパスが停電しているため、システムを停止させた。3月17日(木)15時過ぎ、JLAN の運用再開に合わせ PostJ-PARC も運用を再開したが、同日、東京電力管内の大規模停電が予想されるとの情報により、20時頃に再びシステムを停止させた。通常運用が再開できたのは、3月22日10時からである。震災により、3月17日15時からの約5時間の運用再開を除き、3月11日15時過ぎから22日10時までの長時間運用を停止した。

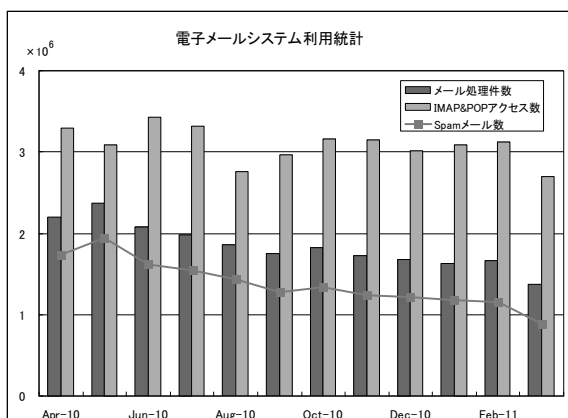
7月3日の JLAN 計画停電には、PostJ-PARC のサービスも出来ない状態となった。また、

8月にはメーリングリストサーバメンテナンスのため、メーリングリストの配信を5時間停止している。

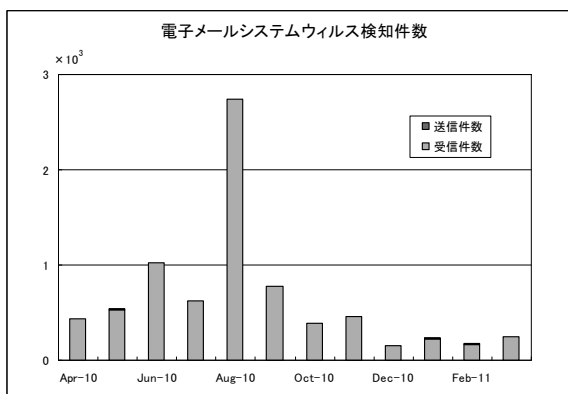
4.1.3 運用統計

4.1.3.1 KEKmail

KEKmail の登録アカウント数は、2010年7月の継続利用手続き前には1,459あり、手続の結果51アカウントを停止した。運用アドレス総数は約5,500である。メール処理件数は2,213万通/年で、前年より10%程減少している。処理件数のうち約3/4はスパムメールとして検知されている。IMAPとPOPを合わせたアクセス数は月平均300万件でその比率は約3:2である。今年度はIMAP接続とPOP接続比が逆転した。WebMail接続数は月平均約2.8万件強で、前年度とほぼ同じであるが、2011年3月に関しては3.9万件と、震災による自宅勤務者の利用により1万件強多い利用になったと思われる。(利用統計グラフ参照)



ウイルス検知件数は年間約7,825件で、前年度より微増となっている。ウイルス付きメールの特徴としては、1通のメールから複数のウイルスが検知されることである。ウイルス検知グラフ中、送信メールにわずかではあるが値がある。これらのほとんどは、パスワード付きファイルや、拡張子がスキャン対象外のunscannableメールであるが、2010年5月には2件のウイルスメールを検知している。(ウイルス検知件数グラフ参照)



メーリングリストの登録数は、2010年7月の継続利用手続き前には594あり、手続の結果42リストを削除している。リストのメンバー数が1,000を超える、大きなメーリングリストも増加している。

作業依頼・問い合わせ等のSEによる対応は、317件(運用管理室対応を除く)であった。

4.1.3.2 PostJ-PARC

PostJ-PARC の登録アカウント数は、2010年3月末現在1,017あり、2009年より15%増となっている。運用アドレス数は約2,300ある。運用メーリングリスト数は169、配送リス

ト数は 80 である。